

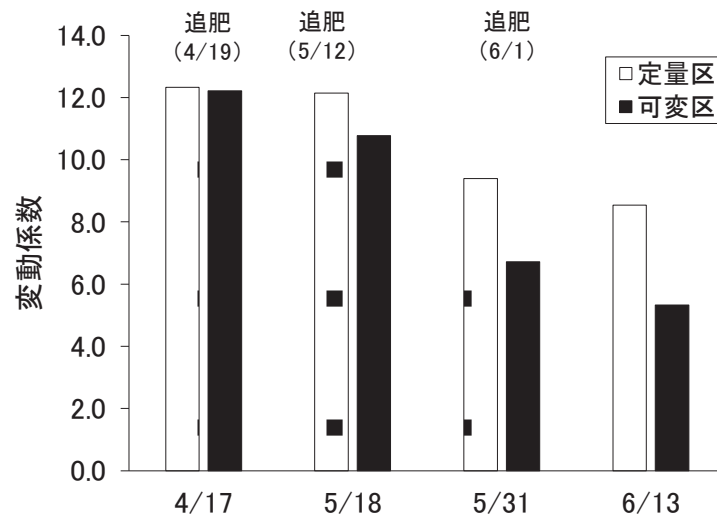


図1 衛星 NDVI 変動係数の推移 (2020)

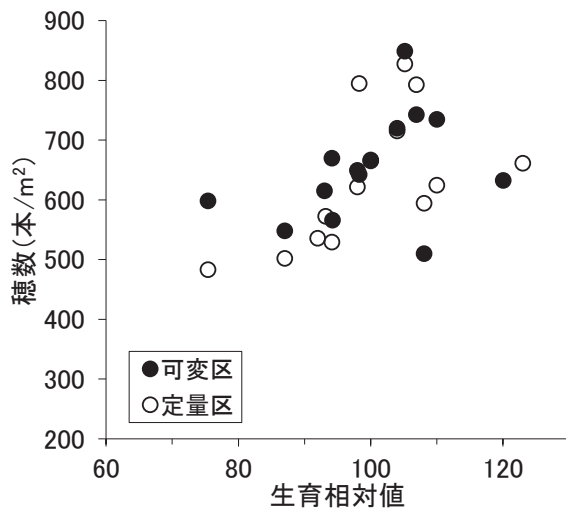


図2 可変区、定量区の穂数 (2018-2020)

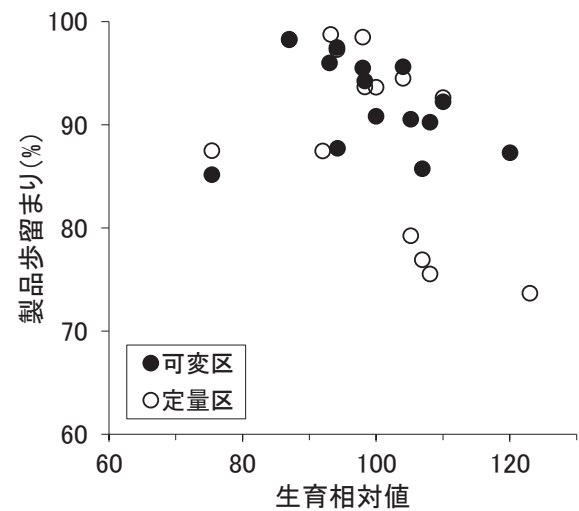


図3 可変区、定量区の製品歩留まり (2018-2020)

注) 生育相対値は前年の衛星 NDVI の圃場平均値を100とした時の各地点の値

表1 起生期からの可変追肥体系による収量向上効果

区	年次	窒素施肥量 (kg/10a)					穂数 (本/m ²)	粗原 収量 (kg/10a)	製品 歩留 (%)	製品 収量 (kg/10a)	タンパク(%)	
		基	起	幼	止	合計					平均	最大-最小
可変区	2018	4.0	3.3~7.5	3.5~6.5	4.0	14.8~20.4	577	616(110)	87.6	539(118)	12.3	1.9
	2019	4.0	3.4~9.0	—	3.0~5.0	10.4~18.0	654	755(106)	95.5	721(106)	12.0	1.4
	2020	4.0	5.0~6.9	2.0~5.2	3.0~6.8	14.0~22.7	714	686(104)	91.8	630(109)	10.9	1.2
定量区	2018	4.0	5.0	5.0	4.0	18.0	569	561(100)	81.1	456(100)	12.8	3.0
	2019	4.0	5.0	—	4.0	13.0	607	710(100)	96.5	683(100)	11.5	1.0
	2020	4.0	6.0	4.0	5.0	19.0	722	659(100)	88.2	580(100)	11.5	1.7

注) 基は基肥、起は起生期、幼は幼穂形成期、止は止葉期。追肥の期日は2018は4/20,5/14,6/4、2019は4/30,5/28、2020は4/19,5/12,6/1

注) 可変区の括弧内の数字は定量区に対する百分比

詳しい内容については、次にお問い合わせください。

道総研十勝農業試験場 農業システムグループ

電話 (0155) 62-9835 E-mail : tokachi-agri@hro.or.jp